

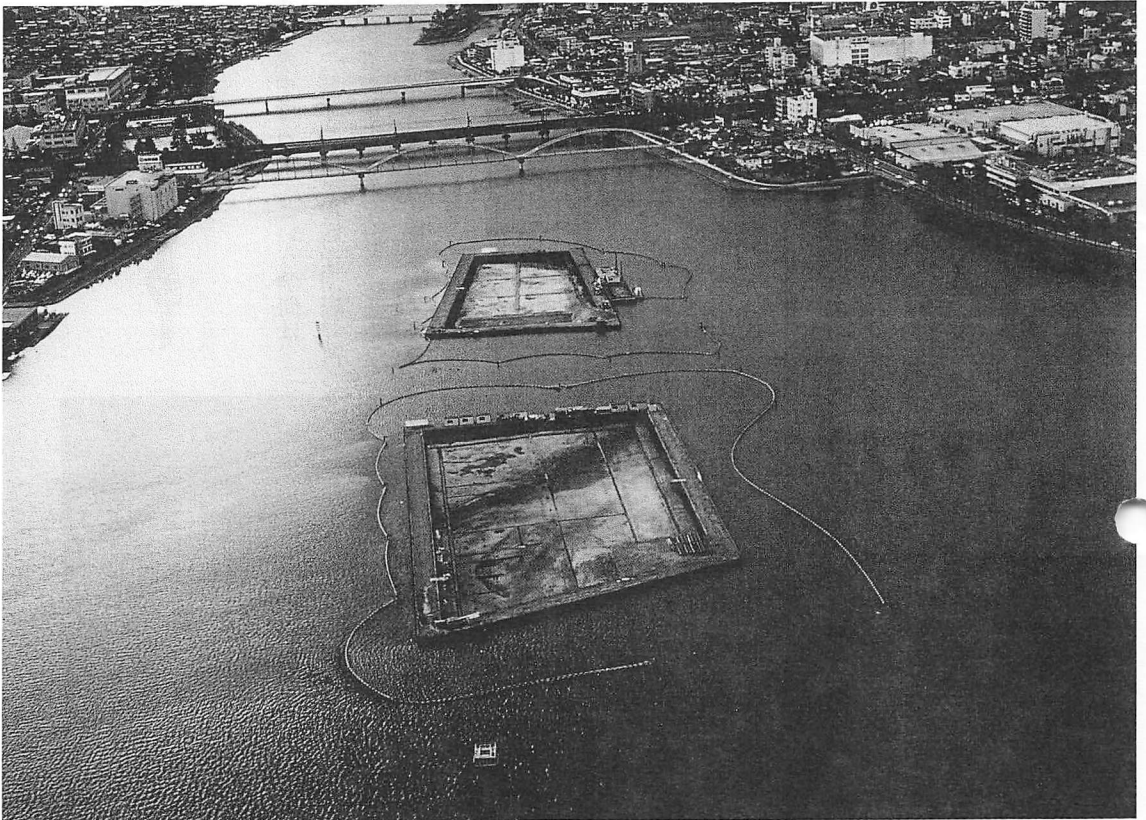
OTSU CITY MUSEUM OF HISTORY

大津 歴博 だより

2001
No.42

開館10周年記念企画展
琵琶湖と水中考古学—湖底からのメッセージ—

3月3日(土)～4月15日(日)



粟津湖底遺跡 (滋賀県教育委員会提供)

琵琶湖から瀬田川に変わる地点一帯に広がる遺跡。平成2年度からの調査で、現在の水面下2.5～3.4mの湖底から、縄文時代中期の貝塚をはじめ、当時の人たちが食料とした動・植物遺体が大量に見つかっています。



大津市歴史博物館

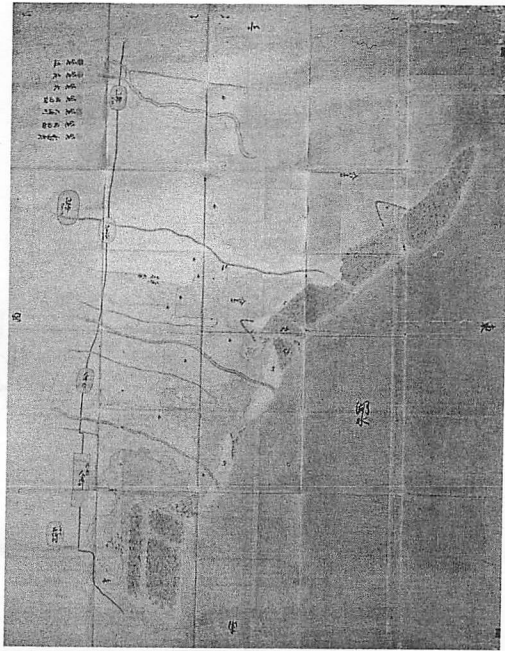
開館10周年記念企画展

琵琶湖と水中考古学——湖底からのメッセージ——

近年、「水中考古学」の発展には目覚ましいものがあります。「水中考古学」という学問は、その名の通り、対象のフィールドを水中（実は水底なのですが）に求めて、海底や湖底、河底に残る遺跡を調査し、その成り立ちを研究するものです。調査方法の進展や機器の急速な技術革新などにより、日本をはじめ世界各地で、海底や湖底の遺跡や沈没船の調査がより詳細に行えるようになり、大きな成果をあげています。ところが、日本の水中考古学の本格的な始まりが、昭和三十四年（一九五九）、びわ湖学術研究会が琵琶湖総合科学調査の一環として行った琵琶湖北湖の湖底に残る遺跡（葛籠尾崎湖底遺跡）の調査であったことはあまり知られていません。



粟津湖底遺跡調査風景
(滋賀県教育委員会提供)



永田村・大溝町駅場航路絵図
(三矢朗家文書、高島町歴史民俗資料館保管)

この葛籠尾崎湖底遺跡の科学的な調査がきっかけとなって注目されるようになった琵琶湖の湖底遺跡は、その後の琵琶湖総合開発に伴う発掘調査などで、湖辺近くの浅い湖底にある遺跡を中心に、新しい遺構が次々に見つかってきています。縄文時代中期の大規模な貝塚が見つかった粟津湖底遺跡（大津市）、壬申の乱時の瀬田橋の遺構ではないかと注目を集めた唐橋遺跡（大津市）、縄文時代晩期の丸木舟が出土した長命寺湖底遺跡（近江八幡市）、水辺の祭祀跡と見られる遺構が見つかった尾上浜遺跡（湖北町）、大地震のあったことを示す噴砂跡（地震は湖底遺跡ができる原因として有力な説なのですが）があった針江浜遺跡（新旭町）……挙げていけばきりがありません。

本展覧会では、これまでの湖底遺跡の発掘調査成果や、現在進められている、中世や近世の村が水没したという伝承を持つ湖底遺跡（「……千軒」遺跡）の潜水調査成果などを紹介し、琵琶湖の歴史的な変遷や、自然環境の変化などを追っていくこうとするものです。あわせて、滋賀県湖北町出身で、日本の水中考古学の発展に尽くされた故小江慶雄先生（元京都教育大学学長）の業績を紹介するコーナーも設けます。

●主な展示資料

- 葛籠尾崎湖底遺跡出土縄文土器(個人蔵)
- 『近江国菅浦与大浦下莊堺絵図 複製品』
(市立長浜城歴史博物館蔵)
- 昭和三四年度琵琶湖総合科学調査関係資料
—新聞記事・写真等(京都新聞社蔵)
- 粟津湖底遺跡・尾上浜遺跡などの湖底遺跡出土品(滋賀県教育委員会保管)
- 唐橋遺跡発掘調査状況復元模型(館蔵)
- 『永田村・大溝町舩場航路絵図』(三矢朗家文書、高島町歴史民俗資料館保管)をはじめとする湖辺を描いた村絵図

●観覧料

- 一 一般…四〇〇円(三二〇円)
- 高・大生…三〇〇円(二四〇円)
- 小・中生…二〇〇円(一六〇円)
- ※(一)内は、前売、団体(五名以上)、市内在住の六五歳以上の方・障害者の方の割引料金

●休館日

- 3/5・12・19・21・26
- 4/2・9

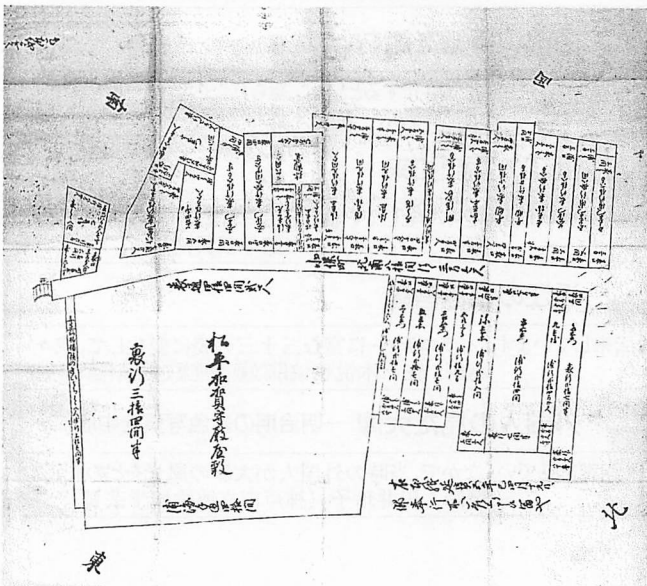
収藏品紹介

35

延宝北保町絵図

江戸時代に描かれた大津町の個別町絵図としては、元禄八年(一六九五)の絵図がよく知られています。近年の調査でこれに先立つ延宝五年に、同じように各町絵図が作られていたことが明らかとなってきました。ここで紹介する「延宝北保町絵図」もその一つです。北保町は現在の大門通・観音寺の一部にあたり、北国海道の両側に開けた町で、東は琵琶湖に接しています。絵図を見てもまず目をひくのが、全体の四分の一以上を占める「松平加賀守殿屋敷」です。松平加賀守とは金沢藩主前田綱紀のことで、これは通称「加賀蔵」と呼ばれた金沢藩の蔵屋敷です。大津には琵琶湖の湖上交通を利用して年貢米を始めとする多くの物資が集まり、幕府や諸大名の蔵屋敷が建ち並んでいましたが、加賀蔵はその中でも三本の指に入る規模を誇りました。絵図には表通四四間二尺(約八メートル)・奥行三四間半(約六三メートル)とあります。他は一般住人の敷地で、一筆毎に所有者・表口・奥行・裏幅を記しています。そして、右下には、「右本紙延宝五年巳四月十九日二御奉行所へ差上り申候留也」と、絵図作成の経緯が記されています。

延宝五年に町絵図が作成された理由にはつきりしませんが、この年着手された畿内幕府領の検地と関係あるのかもしれない。いずれにしろ、延宝の町絵図は、元禄に先行する絵図として興味深い内容を含んでおり、両者の比較検討は多くの成果をもたらすことになるでしょう。



紙本墨書 一一・二・四×一〇〇・五

延宝五年(一六七七) 一幅

北保町自治会蔵、当館保管

近江の書

—松尾芭蕉から日下部鳴鶴まで—

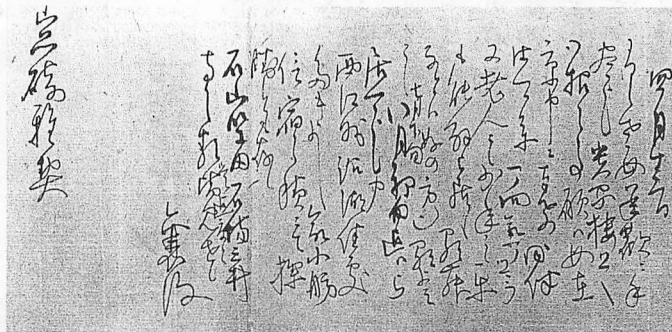
■ 4月10日(火)～6月3日(日)

本展では、松尾芭蕉、頼山陽、巖谷一六、日下部鳴鶴など、近江にゆかりの深い人々の、趣の深い名筆を紹介してゆきます。

俳聖として仰がれた松尾芭蕉の直筆の書簡は、他の短冊などと貼り交ぜになっているものです。

芭蕉は、この書簡のなかで、湖南の地・大津を「旧里（ふるさと）」と呼び、何度でも訪ねたいと語っています。又、江戸時代後期の儒学者頼山陽は、友人である大津の豪商・岩崎鷗雨に宛てて、母親を大津に案内したいとの書簡のなかで、石山、堅田、石場、三井寺などの風光の素晴らしさに触れています。

かたや、江戸時代以降の学者や文人による漢詩文の書には、個性的なものが多く、表現という域にまで高まった書風の魅力を伝えていきます。本展では、龍公美、中島棕隠、貫名海屋ら近江ゆかりの江戸の文人と、近江が輩出した明治期を代表する書家、巖谷一六、日下部鳴鶴らの作品を紹介します。なお、堅田の茶人として知られる北村幽安の関係資料などもあわせて展示します。



四月十三日付 岩崎鷗雨宛頼山陽書簡(当館蔵)

講座インフォメーション(4月から5月まで)

4月14日(土) 13:30から15:00	近江の仏像 ①	近江の阿弥陀如来
○阿弥陀如来は、浄土教文化発祥地である比叡山と密接な関係にあります。近江に伝わる優れた仏像、仏画を中心に、「阿弥陀さま」の文化史的意義を考えます。 講師：大原嘉豊(京大文学部東洋学研究所助手)		
4月28日(土) 13:30から15:00	古文書に親しむ ⑦	芭蕉の手紙を読む
○芭蕉が大津の門人に宛てた手紙を教材にして芭蕉の書きぐせなどを紹介するとともに、綴られた内容を分析し、いかに芭蕉が近江の風光や門人たちを愛したかを明らかにします。 講師：樋爪 修(本館学芸員)		
5月5日(祝) 13:30から15:00	近江の仏像 ②	近江の薬師如来
○比叡山延暦寺や善水寺(甲西町)など、古代寺院の多くは薬師を本尊としていました。さまざまな「お薬師さま」の魅力と、その歴史的背景をみていきます。 講師：寺島典人(本館学芸員)		
5月12日(土) 13:30から15:00	近江の仏像 ③	近江の観音菩薩
○近江には、彫刻的に優れた「観音さま」が多数伝来しています。バラエティーに富む三十三の姿に変化して、我々を魅了する「観音さま」の信仰と美に迫ります。 講師：佐々木悦也(高月町立観音の里歴史民俗資料館学芸員)		
5月19日(土) 13:30から15:00	企画展関連講座	外国人の見た大津 —明治期の彩色写真を中心に—
○明治初期、来日した外国人に好評を博した彩色写真を見ていくなかで、当時の外国人が大津の風光をどのように見ていたかを紹介します。 講師：田井玲子(神戸市立博物館学芸員)		

大津の雨乞い

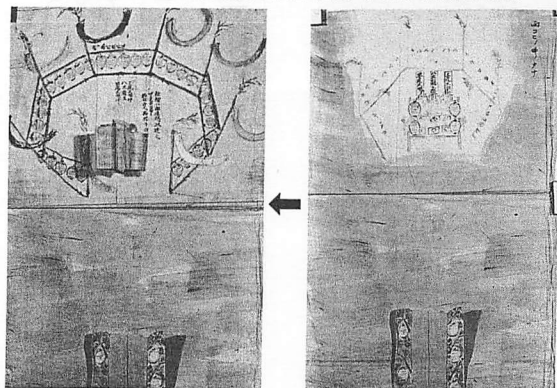
6月5日(火)～7月22日(日)

江・水・利水事業の進んだ現代では実感がわきませんが、かつての農村における水不足は、死活問題でした。人々はカミに祈るしかなく、盛んに「雨乞い」が行われたのです。

湖岸の農村であった尾花川では、江戸時代後期、湖の中に祭壇を設けて雨乞いが行われており、この一連の資料が残されています。まず注目されるのは、雨乞い絵図です。大きな画面に、普段の湖岸線と湖が描かれ、その上に祭壇や仮設の参道を描いた紙が貼り付けられています。一部が糊付けされているため、重ねると雨乞いの様子が、めくると普段の様子が出てくるように工夫されています。雨乞いという特殊な時を記録するため、このような手の込んだ絵図が作成されたのでしょう。祭壇には、水神である八大龍王が祀られ、その祭壇の飾りなどが細かく描きこまれています。

また、雨乞いは、雨を祈るだけでなく、願いどおり雨が降った時の返礼を盛大に行いました。祈りが切実であるだけに、その喜びも大きくさまざまに芸能が奉納される機会だったので、尾花川の場合も、この返礼を描いた絵巻が残されており、龍の作り物や竜宮に見立てた屋台、それをとりまく魚たちの仮装など、にぎやかに喜びを表現していた様子が描かれています。この展示では、尾花川での雨乞い関係資料を中心に、類似の雨乞いが行われていた湖岸農村の資料もあわせて紹介し、当時の人々の水への思いを考えてみます。

寛政6年(1794)雨乞之図の部分(尾花川親友会蔵)



返礼

雨乞い

講座インフォメーション(5月から6月まで)

5月26日(土) 13:30から15:00	企画展関連講座	古写真でふりかえる大津の20世紀
○明治末年から昭和まで、20世紀に大きな変化を見せた大津の湖岸の風景や、姿を消した建物などを、貴重な古写真で振りかえるとともに、詳しく分析、紹介してゆきます。講師：樋爪 修(本館学芸員)		
6月2日(土) 13:30から15:00	古文書に親しむ⑧	漢詩文の読解2
○ミニ企画展「近江の書」には、当時の著名漢詩人による作品が出品されています。それらを取り上げ、漢詩文の読解入門編を行ないます。講師：伊東宗裕(京都市歴史資料館館員)		
6月9日(土) 10:00から11:30	親子歴史講座	膳所を歩こう -江戸時代の絵図を見ながら-
○元禄時代に描かれた、膳所城と城下町の絵図を見ながら現地をあるきます。講師：杉江 進(本館学芸員)		
6月16日(土) 13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	湖岸農村の雨乞い
○大津市尾花川に残された資料を中心に、湖岸農村で行なわれていた雨乞いの実態を紹介します。講師：和田光生(本館学芸員)		
6月23日(土) 13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	近江の雨乞い
○近江における雨乞いは、芸能を伝える機会でもありました。現在も数多く伝承されている雨乞いの太鼓踊りを中心に、近江の雨乞いの特徴を紹介します。講師：中島誠一(市立長浜城歴史博物館学芸員)		

※諸般の事情により、内容が変更される場合があります。

※いずれの講座もハガキで、お申込みください。

※参加証の発送は、講座申込み締切り(10日前)以降となります。

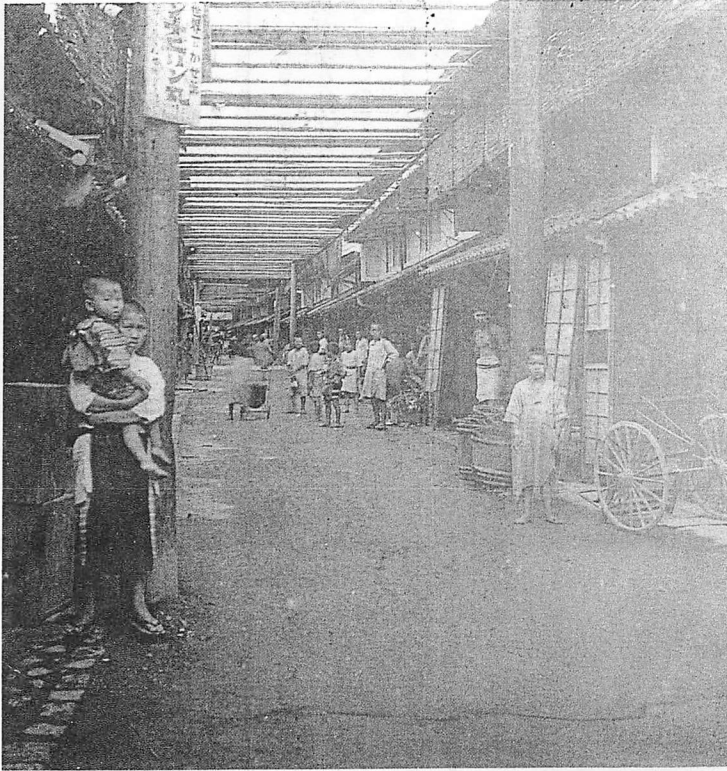
※参加証がない場合は、恐れ入りますが、当館までお問い合わせください。

企画展

「写された大津の20世紀」

5月12日(土)～6月10日(日)

企画展示室B



柳町の魚市場風景（現在の中央2丁目） 明治末年頃

明治末年から平成までの二十世紀、大津市の風景や市民の風俗も大きな変化を見せています。湖岸の埋め立てや戦争、戦後の家庭電化による市民生活の変化など、それはもう目を見張るばかりです。今回の企画展では、そういった移り変わりを、当館が収集してきた古写真や資料によってたどりまします。

企画展のテーマは二十世紀ですが、日本に写真の技術が輸入されたのは、幕末の十九世紀のことでした。横浜にあった写真館が、開国によって来日した外国人向けに、日本各地の風景をモノクロ撮影し、そのプリントに水彩絵の具で色づけした、いわゆる「彩色写真」がそれです。今回は、二十世紀を振り返る前段として、これらの彩色写真を展示するとともに、昭和初期のカメラや各小学校などで保管している写真アルバム、台紙付き写真、昔のフィルムであるガラス乾板などの実物資料を展示します。

また、二十世紀の大津市の変遷をたどる古写真は写真パネルとして展示します。現在の風景と比較してみられてはどうでしょうか。皆さん方の生活の場が、五〇年前、一〇〇年前はどんな様子だったかを御覧いただくのも、興味深いことと思います。

●主な展示資料

- 明治期彩色写真（明治十年代）
- 高観音から長等地区を望む
- 写真機材一式（ガラス乾板用）
- 幼稚園・小学校写真アルバム
- 台紙付き卒業写真
- ガラス乾板

●観覧料

- 一般 二一〇円
 - 高・大生 一五〇円
 - 小・中生 一〇〇円
- ※常設展示と共通

●休館日

- 月曜日（4月30日は開館）
- 5月1日（火）

大津歴博だより No.42

平成13年2月15日

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-28 (077) 521-2100

ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>